

2018年度事業報告

(平成30年4月1日～平成31年3月31日)

公益社団法人日本馬術連盟（JEF）は、平成30年3月15日開催の平成29年度第7回定例理事会において承認された平成30年度の事業計画および収支予算に基づき、以下の事業を実施した。なお、一部については、期中に補正を行った。

平成30年度に開催された特に重要な国際大会として、世界馬術選手権大会(2018/トライオン)および第18回アジア競技大会（2018/ジャカルタ）があった。

世界馬術選手権大会において、総合馬術チームが歴代最高順位となる4位入賞を果たした。ドイツ等の欧州強豪国を退けての4位入賞は、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会（東京2020大会）における馬術界悲願のメダル獲得を現実的な目標とするものであった。また、田中利幸選手が個人歴代最高順位の15位となった。さらにパラ・ドレツサーージュ競技においては、中村公子選手が史上初の銅メダルを獲得した。

アジア競技大会においては、総合馬術は団体金・個人金、馬場馬術は4大会ぶりに団体金、障害馬術は団体銀と良好な成績であった。

東京2020大会に向けて、JRA特別振興資金事業による馬術競技強化対策等を昨年度に引き続き実施した。東京2020大会の開催準備に関して、引き続き東京2020大会組織委員会に協力し、2019年に開催するテストイベントは、東京2020大会組織委員会とJEFで共催することとなった。

各事業については、以下のとおり、

1. 馬術の普及・振興

(1) 馬術に関する情報システムの運営

- ① ウェブサイトおよびSNSを運営し、競技会や規程の改正などの情報につき迅速な広報を実施した。
- ② 競技会の実施要項や成績速報、講習会の案内などを迅速に掲載するとともに、『馬術情報』とウェブサイトをクリックして広報の充実を図った。
- ③ 馬術ファンサイト「A to Zinba」を適宜更新した。

(2) 機関誌発行

- ① 情報を的確に伝達し、馬術の振興および各種記録の保存に資するため、月刊機関誌『馬術情報』を刊行した。
- ② 『馬術情報』を日馬連会員、関係団体、マスコミ各社に配布するとともに、購読希望者に対し頒布した。

(3) 馬術関係資料の作成・配布

- ① 各種規程集および日馬連で扱う馬術競技の紹介・ルール解説等の資料を作成し、頒布した。

- ② マスメディアに対し情報を積極的に提供した。特に、朝日新聞、神戸新聞社、山梨放送、山梨日日新聞、静岡新聞、日本放送協会、静岡放送には大会の後援を依頼し、広報を充実させた。また、NHKの全日本障害馬術大会パートI放映、グリーンチャンネルの全日本総合馬術大会放映等に協力した。

(4) マーケティング活動

- ① 3社が最上位スポンサーであるオフィシャルパートナーに、3社がオフィシャルサポーターに、1社がオフィシャルサプライヤーになった。
- ② パートナーシッププログラムを適切に実施した。
- ③ 馬術スペシャルアンバサダーおよび馬術アンバサダーライダーを任命し、幅広い層に対して馬術の認知度・魅力を広めた。
- ④ JRA 東京競馬場とのコラボイベントを競馬開催日に実施した。
- ⑤ 世田谷区主催「東京 2020 大会 600 日前イベント」に協力した。
- ⑥ 芸能人等による馬術応援団を結成した。

(5) 動画配信

インターネットを活用し、競技会のライブ配信を18回（他団体主催7回を含む）実施した。

(6) 各種表彰

- ① 名誉総裁表彰として、世界馬術選手権大会（2018/トライオン）における総合馬術団体4位入賞、アジア競技大会における馬場馬術団体優勝および総合馬術団体・個人優勝に関して選手および馬匹所有者を表彰した。また、世界馬術選手権パラ・ドレッサージュ競技個人3位の中村公子選手を表彰した。
- ② 特別表彰として、世界馬術選手権出場とアジア競技大会障害馬術団体2位の選手および馬匹所有者を表彰した。
- ③ 永年に亘り馬術界に功績のあった人馬4名（功労者2名、地域功労者2名）11頭を表彰した。また、国内外競技会において、優秀な成績を収めた人馬4名8頭を表彰した。
- ④ スポンサー特別表彰（新設）として、大岩義明選手及び田中利幸選手を表彰した。
- ⑤ 競技馬の資質向上のため、優秀な成績を収めた乗馬に対して飼育奨励金を交付した。
- ⑥ 競技馬の資源確保および調教技術向上を図るため、優秀な成績を収めた内国産馬（元競走馬を含む）に対して飼育奨励金を交付した。
- ⑦ 優秀な成績を収めた内国産乗用馬の生産者に対して感謝状を贈呈した。

(7) NF 活動の推進（National Federation:国内を統括するスポーツ団体）

- ① （公財）日本オリンピック委員会および（公財）日本スポーツ協会の会議等に積極的に参加した（9回）。
- ② FEI およびアジア馬術連盟の活動に参画し、国際情報を迅速に収集し、日本馬術界の国際的地位向上に努めた。FEI と緊密に連携し、国際的に活動

する選手を支援した。また、スポーツ庁 IF 役員獲得支援事業を活用して、各種会議に JEF 役職員等を派遣した。アジア馬術連盟の副会長ポストを獲得した。

(8) 馬術基盤の維持拡大

- ① 組成団体に対しその加盟する団体が所有する馬匹について、飼育費助成および優秀乗馬助成を行った。また、都道府県馬術連盟および組成団体等の事業費・事務費の助成を行った。
- ② 馬事関連団体と連携し、馬術の普及・振興に努めた。
- ③ 内国産馬の振興を図るため、内国産馬限定競技を主催競技会に組み入れるなど、内国産馬の活用を促進した。
- ④ 東京 2020 大会に向けた馬事公苑整備工事に伴う各種馬術競技会開催等支援事業として、7 主催者 16 競技会について支援を行った。また、これら競技会への参加促進のため、関東学生馬術協会加盟馬術部の活動支援を行った。(JRA 特別振興事業)
- ⑤ インテグリティに関する意識向上のため、JOC セミナーに指導者(3名)、選手(5名)が参加した。

2. 会員と乗馬の登録

- ① 選手や指導者あるいは団体の活動をサポートするため、登録会員(6,904:個人 6,244、県馬連所属団体 395、組成団体所属団体 265)および乗馬(3,998)の登録を行った。
- ② FEI 公認競技会に参加する人馬および競技役員の FEI 登録事務を実施した。
- ③ 「JEF 情報システム」を活用し、登録における会員サービスの向上および事務の合理化を図った。

3. 競技会規程の制定、各種資格の認定

(1) 競技会規程の制定・整備

JEF の各種規程の制定および改廃を行った。また、FEI 各種規程の制定・改廃に対応して、国内規程を改正し、FEI 規程の国内適用を図った。

(2) 競技役員資格

- ① 審判員等技術役員資格者の認定および資格保持者の技術向上のため講習会を実施(17回)するとともに、都道府県等が開催する講習会を公認(11回)した。
- ② 障害馬術競技で使用するコースの設計および設営を担うスペシャリストとしてのコースデザイナー講習会を開催(1回)し資格を認定した。
- ③ 講習会の内容の統一のため、講師の研修会を開催(1回)した。
- ④ 国際競技役員養成のための FEI 公認講習会を開催(2回)した。また、海外の講習会、競技会へ技術役員を 17 名派遣した。

(3) 指導者資格

① 日本スポーツ協会公認スポーツ指導者

(公財)日本スポーツ協会が制定する公認スポーツ指導者制度に基づく統一カリキュラムによる日本スポーツ協会公認馬術コーチ養成専門科目講習会を開催し、馬術に特化したコーチ・指導員を増員した。

② 日本馬術連盟認定指導者

馬術指導者の資格認定・更新および専門知識習得と資質向上のため、日馬連独自のカリキュラムによる JEF 認定指導員養成講習会を開催し、指導者(36名)を増員した。

(4) 選手の資格認定

主催・公認競技会および国際競技会参加のための騎乗者の資格認定・登録を行った(A級 33名、B級 424名、C級 97名)。

都道府県等が開催する騎乗者資格認定のための審査会(B級 27回、C級 28回)を規程に基づいて公認した。

(5) 競技会の公認

JEF 公認競技会のカテゴリー制・馬のグレード制を円滑に運営し、活性化に努めた(障害 107、馬場 65、総合 6、エンデュランス 20:合計 198)。

4. 選手の強化

(1) 東京 2020 大会に向けた馬術競技強化対策事業 (JRA 特別振興事業)

① 強化体制の整備として、昨年度に引き続きドイツ(障害・馬場)およびフランス(総合)に設置した JEF 海外トレーニング拠点計 3 か所を運用した。また、ジェネラルマネージャー、シニアマネージャー等の海外コーチングチームを設置した。

② 海外競技活動支援として、17 名(障害 9・馬場 5・総合 3)の選手に活動補助費を交付した。

③ 優良競技馬による競技活動支援を目的に、5 頭(障害 3・総合 2)を購入した。

④ 総合馬術(2名)と馬場馬術(2名)の育成選手を JEF 海外トレーニング拠点に配置した。

(2) 選手強化対策

① 東京 2020 大会に関する障害馬術選手ミーティングを、ドイツで開催した。

② 騎乗・調教技術の向上を図るため、海外から講師を招聘して強化訓練を実施した(障害 1、馬場 1、総合 2)。また、海外強化合宿を実施した(総合 3回)。

③ 優秀な成績を挙げた選手をナショナルチームメンバーに認定した(障害 14人馬、プロGRESS 14人、プロGRESSジュニア 11人・馬場 7人馬、プロGRESS 31人、プロGRESSジュニア 25人・総合 6人、プロGRESS 10人、プロGRESSジュニア 13人)。

(3) ジュニア育成

- ① 国際レベルの選手を育成するため、ヤング・ジュニア層の発掘および強化のため研修会を開催（9回）するとともに、海外の競技会・強化訓練等に若手選手等を派遣した（障害2回、馬場2回、総合4回）。
- ② ジュニアアスリート担当の JOC 専任コーチングディレクターを2名（馬場1、総合1）設置し、将来を担う若手の育成を図った。

(4) ナショナルトレーニングセンター（NTC）の活用

- ① 文部科学省が進めるナショナルトレーニングセンター中核拠点施設整備の馬術競技強化拠点として御殿場市馬術・スポーツセンターを活用した（22回76日、内JEF11回35日）。
- ② 医科学サポートに関わるデータ収集として、「騎乗中における選手の心拍数測定」を実施した。

5. 競技会の開催

(1) 競技会の開催

- ① 全日本障害馬術大会（パートI、パートII、ジュニア）、全日本馬場馬術大会（パートI、パートII、ジュニア）、全日本総合馬術大会（パートI、ヤング、ジュニア）、全日本エンデュランス馬術大会を主催した。また、障害・馬場の全日本ジュニアおよび全日本ヤング総合馬術大会は JOC ジュニアオリンピックカップ大会として主催した。
- ② アジア競技大会馬場馬術代表人馬選考会を、ドイツ会場および日本会場にて開催した。

(2) 競技会の共催

- ① 第73回国民体育大会馬術競技（福井県）を文部科学省他の団体とともに、御殿場市馬術・スポーツセンターにて主催した。
- ② 全日本学生馬術大会2018および第90回全日本学生馬術選手権大会・第54回全日本学生馬術女子選手権大会について、全日本学生馬術連盟とともに主催した。また、第3回全日本高校生自馬選手権大会について、全日本高等学校馬術連盟とともに主催した。

(3) FEI 公認競技会

- ① JEF 主催により、FEI 公認馬術大会を6回（チルドレン障害1、馬場1、総合4）開催した。
- ② 日本国内で会員団体が主催する FEI 公認馬術大会12大会（障害7、馬場1、エンデュランス4）の開催を支援した。

(4) ドーピングの防止

- ① 講習会（3回）、強化合宿（2回）および国体の打ち合わせ会での関係者に対する指導を通じて、馬のドーピング防止に努めた。
- ② 主催競技会（15頭）、FEI 公認大会（15頭）並びに代表選考競技会（17頭）において馬ドーピング検査を47頭を実施し、全頭陰性だった。

- ③ 日本アンチ・ドーピング機構（JADA）と協力して、競技者のドーピング検査を 12 名に実施し、全件陰性だった。

6. 国際競技会への派遣・支援

(1) 世界馬術選手権大会（2018／トライオン）

- ① 障害馬術は 4 人馬が出場したが、団体決勝に進めず、20 位（25 か国出場）であった。個人ではポーリー・カレン選手&ウィズウイングスが決勝に進み、21 位であった。
- ② 馬場馬術は 4 人馬が出場した。66.83%で団体決勝に進めず、14 位（15 か国参加）であった。個人の最上位は、林伸伍選手&エクウイスクリアウォーターの 46 位（67.655%）であった。
- ③ 総合馬術は 4 人馬が出場した。団体において総減点 113.9 で、歴代最高順位となる 4 位に入賞した。個人成績では、田中利幸選手&タルマダルーが歴代最高順位の 15 位となった。
- ④ エンデュランスは、1 人馬が出場したが、馬のウェルフェアの観点から競技が中止となった。
- ⑤ パラ・ドレッサージュは 4 人馬が出場した。グレード V において、中村公子選手&ジャズ F が、史上初となる銅メダルを獲得した。
- ⑥ レイニングは 1 人馬が出場したが、決勝に進出できなかった。

(2) アジア競技大会（2018／ジャカルタ）

- ① 障害馬術は 4 人馬が出場した。団体は減点 12.74 で、サウジアラビアに次いで 2 位となった。差が 1.84 と小差であり、初戦のスピード競技における減点が最後まで影響した結果であった。個人成績では、杉谷泰造選手&ヒロインデミューズが、日本最高位の 4 位入賞した。
- ② 馬場馬術は 4 人馬が出場した。セントジョージ賞典で行われた団体では 69.499%を獲得し、24 年ぶりの金メダルを獲得した。自由演技インターメディエイト I で行われた個人決勝では、照井駿介選手&アリアス・マックスが 74.735%で 4 位に入賞した。
- ③ 総合馬術は 4 人馬が出場した。CCI 1 スターで行われた団体戦において、合計減点 82.40 で 2 大会ぶりの金メダルを獲得した。また、個人戦においても大岩義明選手&バートエル JRA が金メダルを獲得した。

- (3) その他の国際競技会等へ選手・役員を派遣（障害 5 回、馬場 2 回、総合 2 回）し、競技力向上および海外情報収集に努め、併せて国際交流・親善を深めた。
- (4) 2018 年ワールドカップ日本リーグ優勝人馬が CSI-W Final へ参加し、輸送支援を実施した。
- (5) 世界各国における FEI 公認馬術大会に参加する日本選手（障害 35 名、馬場 15 名、総合 7 名、エンデュランス 3 名）を支援した。

7. 東京 2020 大会の準備

- ① 東京 2020 大会およびテストイベントの、開催準備・防疫対策・メディア対応等について、FEI、東京 2020 大会組織委員会、農林水産省、東京都、JRA 等と打ち合わせを 23 回行った。
- ② 近代五種競技の馬匹準備に係る打ち合わせを、(公社)日本近代五種協会、東京 2020 組織委員会と 2 回行った。
- ③ テストイベントの競技会役員の一部を、東京 2020 組織委員会に推薦した。
- ④ 東京 2020 大会の競技ボランティアの募集について、東京 2020 組織委員会に協力した。
- ⑤ 東京 2020 大会の競技会役員養成の一環として、アーヘン国際馬術大会に 2 名、アジア競技大会に 6 名及び世界馬術選手権大会に 5 名を派遣した。

会員と乗馬の登録

(1) 会員登録数

区 分	H30. 3. 31 (A)	入会	退会	H31. 3. 31 (B)	差引増減 (△減)	対前年比 (B/A)
① 正会員	55	0	0	55	0	100.00
イ. 都道府県馬術連盟	47	0	0	47	0	100.00
ロ. 組成団体	4	0	0	4	0	100.00
ハ. 学識経験者	4	0	0	4	0	100.00
② 登録会員	6,907	577	580	6,904	△ 3	99.96
イ. 個人	6,259	547	562	6,244	△ 15	99.76
ロ. 県馬連に所属する団体	385	20	10	395	10	102.60
ハ. 組成団体に所属する団体	263	10	8	265	2	100.76
全日本学生馬術連盟	80	0	0	80	0	100.00
全日本高等学校馬術連盟	85	7	5	87	2	102.35
日本乗馬少年団連盟	63	3	2	64	1	101.59
日本社会人団体馬術連盟	35	0	1	34	△ 1	97.14
③ 賛助会員	1	0	1	0	△ 1	0.00

(2) 乗馬登録数

区 分	H30. 3. 31 (A)	登録	抹消	H31. 3. 31 (B)	差引増減 (△減)	対前年比 (B/A)
乗馬登録数	3,888	580	470	3,998	110	102.83

(3) FEI登録数

区 分	選手	馬匹	トレーナー
障害馬術	79	124	
馬場馬術	34	59	
総合馬術	15	25	
エンデュランス	14	21	1
軽乗	0	0	
パラ馬術	14	22	
レイニング	0	0	
合 計	156	251	1

(4) 乗馬登録数

平成30年度 FEIパスポート（リコグニションカードを含む）交付・更新・変更数

新規交付	25
更 新	39
変 更	30
再発行	4

（うちマイクロチップ埋込み 4件）